

第3 ころーれキッズ川鶴 令和6年度 小学生向け支援プログラム

療育理念	関連法規に則り、児童の発達に必要な療育を提供し、社会で生きやすくすることを目指す。					
療育目標・子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能のトレーニングをすることで、正しく自身以外の事柄や事象に対しての認知を持つ。 ・学校において授業で困らない学力の定着を図る。 					
療育方針	問題に直面した時、自分で考えて解決策を模索できるようになる。					
年間療育目標	自分の考えや意見を言葉で相手に伝えて行動できるようになる。					
療育内容	共通	正しい認知を持つ。				
	低学年	遊びを通して他者との距離感や自分の意見を伝える練習をする。認知機能の向上と学力のフォローをする。				
	高学年	認知機能の向上と学力のフォローをする。中学への進学を見据え、少しでも多くの小学生範囲の学力を付ける。				
5 領域療育支援プログラム		健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語コミュニケーション	人間関係・社会性
	低学年	規則正しい生活、食事を通して身体の発達を促す。 食育を通じて食べることと自分の身体のことを考え、吸収していく。	体幹トレーニングを通して身体のバランス向上を図る。 体を動かすことで自分の得意なことを見つける。	自分以外の存在について、他者の立場を意識した言動がとれるようにする。	自分の考えや思いを言葉で組み立てて発信する。	他者との関わりを持ち、交友関係を広げていく。
高学年	進学に向けての体づくりと生活リズムの確立を目指す。	苦手なことの克服と得意なことを伸ばしていく。	年下の存在に対する配慮と望ましい行動が考えられるようになる。 他者の存在を適切に認知して、自身で考えて行動できるようになる。	語彙力を増やすことで言葉での表現の幅を増やす。 どういった言い回しなら自分の考えや意見が伝わるのかを考えられるようになる。	大人との関わりだけでなく、積極的に年齢を問わず交友関係を作れるようする。 交友関係を大切にして、より様々な他者との関わりを作る。	
食育	旬の食材や調理を意識した食について体験できるプログラムを通して、食べることの大切さや楽しさを知り、豊かな心を育む。					
環境・衛生管理	登所時のうがい、手洗いの実施、毎日の清掃					
安全対策	危機管理マニュアル、施設内外の安全点検、避難訓練、事故防止委員会、安全計画、BCP、虐待防止委員会、身体拘束防止					
研修計画	主にキャリアアップ研修(県)への参加と報告、最新の共通理解による療育の把握、強度行動の研修					
地域交流	商店街による行事・防災訓練の参加、季節行事の実施、産業まつりへの参加					
インクルージョン	学童保育室や児童館の協力による普段と異なる場と児童のコミュニケーションの練習					
保護者支援	学校の短縮日程や休校による長時間利用の支援、情報提供、相談支援等					
自己・他者・施設評価	自己評価、保護者へのアンケート実施					
関係連携機関	行政機関・医療機関・学校等教育機関・障害児相談支援事業所・福祉サービス事業所(放課後等デイサービス・訪問看護等)					
評価・反省						

第3 ころーれキッズ川鶴 令和6年度 中高生向け支援プログラム

療育理念	関連法規に則り、児童の発達に必要な療育を提供し、社会で生きやすくすることを目指す。					
療育目標・子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能のトレーニングをすることで、正しく自身以外の事柄や事象に対しての認知を持つ。 ・学校において授業で困らない学力の定着を図る。 ・社会の一員として自覚を持って行動できるようになる。 					
療育方針	問題に直面した時、自分で考えて解決策を模索し判断できるようになる。					
年間療育目標	他者との意見交換ができ、行動決定ができるようになる。					
療育内容	共通	正しい認知を形成することで社会の一員としての自覚を持つ。				
	中学生	自己肯定感を高めて、自己実現のために問題解決能力を養う。				
	高校生	興味・関心に基づいた自己決定を行ない、自身の未来像を描けるようになる。				
5領域療育支援プログラム		健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語コミュニケーション	人間関係・社会性
	中学生	規則正しい生活の定着を図り、日常生活が送れるようにする。	学校の活動だけでなく、学外の活動も利用して身体能力の向上を目指す。	周囲の人に対しての適切な立ち居振る舞いができるようになる。	使用できる言葉の種類を増やして、相手を配慮した言葉遣いができるようになる。	その場に合った対処ができる社会性を構築していく。 社会の実践として目上の存在を認識し、正しい接し方ができるようにする。
高校生	時間の管理ができるようにする。 通学や学校生活を過ごせるようにする。	継続的な運動により、充実した社会生活を送れるための体力作りを行なう。		年齢に即した言葉の使用を目指す。 場面により適切な言葉遣いができるようになる。		
食育	旬の食材や調理を意識した食について体験できるプログラムを通して、食べることの大切さや楽しさを知り、豊かな心を育む。					
環境・衛生管理	登所時のうがい、手洗いの実施、毎日の清掃					
安全対策	危機管理マニュアル、施設内外の安全点検、避難訓練、事故防止委員会、安全計画、BCP、虐待防止委員会、身体拘束防止					
研修計画	主にキャリアアップ研修(県)への参加と報告、最新の共通理解による療育の把握、強度行動障害の研修					
地域交流	商店街による行事・防災訓練の参加、季節行事の実施、産業まつりへの参加					
インクルージョン	地域や法人内施設の連携による、世代間交流の場とコミュニケーション能力の向上					
保護者支援	学校の短縮日程や休校による長時間利用の支援、情報提供、相談支援等					
自己・他者・施設評価	自己評価、保護者へのアンケート実施					
関係連携機関	行政機関・医療機関・学校等教育機関・障害児相談支援事業所・福祉サービス事業所(放課後等デイサービス・訪問看護等)					
評価・反省						